

(松橋東支援) 学校 令和7年度(2025年度)学校評価表

1 学校教育目標
生命の尊重・深い愛情を基盤に、幼児児童生徒一人一人の個性を大切に可能性を最大限に伸ばし、豊かな感性を育み、主体的・自立的に生きていこうとする幼児児童生徒を育成する

2 本年度の重点目標
(1) 安全で安心な教育環境を整備し、障がいの状況に応じた適切な支援を徹底する。 (2) 子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、夢の扉を開く基盤となる自立活動の充実を図る。 (3) 家庭や関係機関と連携した交流及び共同学習を推進し、本校教育の理解啓発を図る。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	経営方針等の具現化	本年度の重点目標、具体的な努力点等の確実な実践	・安全で安心な教育環境の整備に向け、学校での事故を0にする。	・職員同士の声かけによる連携を密にするとともに、細かなことでもヒヤリハット報告等で共有し、ミスの削減を図る。	B	・昨年度のヒヤリハットは7件であったが、今年度は4件である。もれなく把握ができるよう、引き続き努めていく。内容の全体周知が不十分であったのが課題である。
	働きやすい職場環境づくり	働き方改革の推進	・残業時間や休日出勤の削減を目指す。毎月の時間外勤務を全員45時間以下にする。	・時間外の執務の様子を見ながら適宜声かけをし、必要に応じて面談等も行う。また、それぞれの業務内容を把握して負担の平準化に努める。	A	・月間45時間以上の時間外勤務を記録したのは、管理職(教頭・事務長)を除けば、1人(1回)であった。時間外勤務の削減は進んでいるので、引き続き取り組んでいく。業務の平準化にも、さらに取り組んでいく。
	信頼される学校づくり	家庭や関係医療機関との連携強化	・学校行事への保護者の参加を呼びかけ学校への関心を高める。 ・熊本県こども総合療育センターとの一層の連携を図る。	・formsなど、保護者にスピーディかつスムーズに連絡ができるような手段を活用する。 ・各月のセンターとの連絡会等を通じて、情報共有を密に行う。 ・ホームページで、学校の様子を随時発信する。	B	・formsを活用したことで、回答がしやすいという声も聞かれた。回答が難しい家庭には個別に連絡をすることでカバーできた。 ・センターとの連携は、随時情報共有を行い維持することができた。 ・ホームページも月に2~3回以上発信をすることができた。
授業の充実	教育課程	教育課程・教育内容の適正化	・多角的な視点による各幼児児童生徒の実態把握に基づいた教育課程を編成するとともに、適切な評価及び改善を図る。	・複数の職員間での実態把握や保護者との面談、前籍校や関連機関等への聞き取りを通して、十分な実態把握及び情報共有を行う。	B	・子どもの様子について、職員間での多角的な情報交換や保護者との面談、関係機関との面談やケース会議等を実施することで、子どもたち一人一人について幅広い実態把握や情

				<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとに各教育課程に基づいた指導計画や授業内容等の評価を定期的に行う。また、教育課程検討委員会を年3回開催して、各教育課程の評価及び改善や学部間の学びの系統性について検討する。 		<p>報共有を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部で教育課程ごとに職員間で話し合い、見直しや修正を行って幼児児童生徒一人一人に応じた次年度の教育課程を編成できた。また、教育課程検討委員会で、各学部の教育課程に関して意見交換を行い、学びの系統性について話し合うことができた。
授業実践	授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会やグループ研修を実施し、自立活動について知識・理解を深め、実践力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーティーチャー招聘ループ研修を実施し、自立活動の授業づくりや支援の在り方について学ぶ。 ・自立活動の実践について1人1事例をまとめ、情報交換する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度も特別支援教育スキルアップ研修と連動し、授業研究会を実施した。病弱訪問教育部の事例を取り上げ、他学部職員が病棟へ出向く授業参観や指導教諭を招聘しての事前研修を行い、自立活動について知識・理解を深めることができた。 ・1人1事例のまとめは、自立活動の個別の指導計画の指導目標の検証とまとめを学部ごとに行う研修に替えた。 	
	ICT活用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の実態に合わせて、校務や授業づくりでの効果的なICT機器活用の推進に取り組み、学校情報化優良校認定の更新を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報化チェックリストを活用し、本校の課題や職員からの要望を洗い出し、校内研修等で取り上げて改善していく。 ・本校のICT機器を活用した実践事例を収集、共有し、校務の効率化、授業づくりの充実を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい機器やアプリ等の活用について、校内研修を3回計画し実施することができた。うち1回は、ICT機器に詳しい外部講師を招聘して研修を行った。教材作成等で活用できるICT機器についての知見を広げることができた。 ・各学部のICT機器を活用した取組の事例を収集し、学校情報化優良校認定の資料としてまとめることができた。 	
研究の推進	実践的研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の充実を目指す中で、PDCAサイクルの定着を図り、適切な目標設定と 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマを設定し全体研修及び学部研修を実施する。PDCAサイクルに関する講師招聘研修を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の研究テーマの元、計画的に取り組んだ。特に、課題関連図を中心とした自立活動の個別指導計 	

			評価につなげる取組を進める。			画の作成については、指導教諭を招聘しての研修を2回行い基礎を見直した。また、指導教諭による授業参観と個別の意見交換研修を実施し、実践力を高めた。 ・年度末に全体及び各学部等の成果をまとめ、2月に全体研修を実施。PDCAサイクルについては、教務部と連携して今年度の成果をまとめ、次年度の運営に反映する。
キャリア教育(進路指導)	将来を見据えた取組	キャリア教育の視点に立った授業の実践と改善	・卒業後の生活を見据え、幼児児童生徒一人一人に応じた、進路指導の実践を図る。	・幼児児童生徒に応じた実践ができるよう、キャリア教育や、キャリアパスポートに関する資料を職員に提示する。	B	・「キャリアパスポートのポイント」や「身につけたいカー一覧表」、関係資料のデータを整理し、職員がいつでも活用できるよう提示することができた。
	進路情報・研修	進路情報の収集と発信の推進	・本人、保護者、教職員のニーズのもとに進路情報を発信する。	・年度当初に進路希望調査を行い、幼児児童生徒の進路希望を把握しニーズに応じた進路だよりや進路情報の発信を行う。 ・卒業生のアフターフォローを行い卒業後の生活について情報を収集し、進路指導の充実のため職員に情報共有したり、進路だよりで情報発信したりする。	B	・進路希望調査を行った結果のニーズや実態から、中学部向けの進路情報と学校全体を対象とした進路便りを、各2回発行した。 ・過去5年間の卒業生を対象にしたアンケートでは、返信はなかったが、進路だよりで情報発信することができた。
	高等学校(高等部)進学に関する進路指導	進学に関する情報の収集・発信及び進路指導の充実	・生徒の進路実現に向けて情報発信し、関係者との連携を図る。	・進路実現に向けて関係職員の役割を明確にし、卒業までのタイムスケジュールやチェック表を活用して進める。 ・高等学校や高等部進学に関する情報については、紙面回覧及びデータ閲覧ができるようにして進路指導の充実につなげる。	B	・出願形式に合わせてタイムスケジュール等を変更しそれらを活用して進めることができた。 ・資料の回覧や設置をするとともに共有ドライブ等を活用して情報共有を行った。
生徒(生活)指導	安全で安心な教育環境	危機管理対策の充実	・危機管理マニュアルをもとに様々な訓練や研修を行い、改善を随時加えながら充実を図る。	・訓練や研修では想定レベルを上げて実施したり、外部講師を活用したりする。日常的には、職員朝会でヒヤリハット報告を行い、共通理解を図る。	A	・不審者対応訓練研修では、警察関係者に助言をいただいた。また、火災避難訓練では、想定レベルを上げて訓練をし、消防署に助言をいただいた。

	環境整備	校舎内外の安全管理及び環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検をもとに安心安全な教育環境に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検で危険箇所を把握し、事務部と一緒に対応する。急を要するときは、職員朝会やヒヤリハット報告を行い、情報を共有する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を共有することができた。改善に予算を伴うものもあり、すぐには改善できない部分もあるので、継続的に取り組む。
人権教育の推進	人権に関する実践と研修等	人権尊重の視点に立った授業実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に関する「本校の本年度の重点目標」や「第三次とりまとめ」の内容を踏まえた学習を計画、実施する。 ・教育活動全体を通じて行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の職員会議で、「第三次とりまとめ」についての研修を実施し、共通認識を深める。 ・教科横断的な視点で取り組むとともに、幼児児童生徒にしっかりと寄り添い一人一人を大切にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と12月の「人権教育重点月間」の中で、「第三次とりまとめ」の内容を踏まえた授業を学部ごとに実施できた。10月に講師招聘の研修を行ったことで、さらに一人一人の幼児児童生徒に寄り添った授業実践を行うことにつながった。
		職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して様々な人権に関する研修を実施し、教職員一人一人の人権意識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部落差別（同和問題）をはじめとする様々な人権問題をテーマにした研修を計画する。 ・研修の中で、教職員が互いの考えを伝え合う機会を設定する。 ・校外での研修会に全ての教職員を対象に参加し、復講により学び合う機会を設ける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に沿って研修を実施することができた。特に全体研修や人権レポート研修の中で、お互いの考えを伝え合う機会を多く設定したことで、人権意識の向上につながった。
	「命を大切にすることを育む指導」の充実	豊かな感性を育み、知識・理解を深めるための教育実践	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりや感謝の気持ちの高揚を図り豊かな感性の育成等を目指した学習機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が研修等を通して、自身の人権意識を高め、正しい知識を得ることで、日頃の授業実践につなげられるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修等を通して、教職員が正しい知識を得ることにはつながったが、「豊かな感性の育成等を目指した学習機会の設定」について、教職員で共通理解したり意見交換したりする場を設けることはできなかった。 ・重点月間の取組では、学部毎に子どもたちの様子や実態に合わせた授業を計画し、実践できた。
いじめの防止等	いじめの未然防止及び早期発見	いじめ防止の視点に基づいた学校生活づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめが起りにくい環境や状況づくりに努め、幼児児童生徒の変化に早期に気づけるよう職員の意識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に3回「心のアンケート」を実施する。いじめ防止等対策委員会において気になる子供の様子やその背景について外部専門家の意見を仰ぐ。課題や改善点について関係職員で共通理解を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や生活の場である熊本県こども総合療育センターでの子ども同士の間わりを知ることで、授業で取り上げる内容を工夫し、センターの職員や外部専門家の意見を聞き、その

			<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学び、自己肯定感が高まるような取組や、お互いを知り認め合うような集団づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒の作品を展示する機会を多く設け、学習の様子を発信する機会を作る。 ・毎月1回執行委員会を中心に全校集会を開き、幼児児童生徒が関わり合える活動を用意したり友達のがんばっている姿や月毎の誕生者紹介をしたりして仲間意識を高める。 	A	<p>後の対応に活かすことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不知火美術館の作品展では事務局校として作品展を運用した。ピブレス広場や熊本県子ども総合療育センターでも作品を展示することができた。 ・執行委員会の活動として1年を通じて全校集会の進行や各係の役割を務めることができた。全校幼児児童生徒が一堂に会することで、声を掛けあったり、授業で取り組んでいることを知り合ったりすることができた。
地域支援	センター的役割の推進	教育相談等への適切な対応及び教育相談の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各校からのニーズに応じた巡回相談や研修等に対応する。 ・専門性の向上を図り、センター的機能の強化に資する職員の育成を図る。 ・上益城地域連携協議会事務局校（上益城地域連携協議会、実務担当者会、巡回相談員会）として、適切に 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回は、各学校の状況をメール、電話で把握する。 ・巡回相談にあたって、事前の電話等での情報収集に努め、必要に応じて、地域支援部内で事後の実施状況の確認、支援の妥当性について確認しながら、相談校との継続的な連携を図る。 ・巡回相談に適正に対応できる職員の育成を行うために①校内の職員体制の状況に応じて、同行支援を実施する。ケースによっては、松橋西支援にも協力を依頼し同行支援をさせていただく。②地域支援部会等で巡回相談の内容等の共有化を図るためにclassroomに記録をあげ、検討する。 ・関係機関（上益城教育事務所、松橋西支援学校、上益城圏域児童発達支援センター）とメール、電話等での連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の状況を電話で把握し、必要に応じて巡回相談（継続支援）を実施できた。 ・同行支援による巡回相談は、校内支援体制の面から実施が困難であったが、松橋西支援学校の巡回相談に同行させていただいたケースがあった。 ・共有ドライブ等で情報共有を行った。 ・県下の特別支援学校のコーディネーターの先生方と月に1回、オンラインに複数人で参加し、県下の現状や課題を知ることができた。 ・関係機関と連携協議会に関する会議等の事前・事後の情報の共有を電話、メール等で密に連携が図れた。

			業務を遂行する。			
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	CSを通じた地域との連携	地域との連携強化	・学校運営協議会の会合を通じて、地域との連携強化を図る。	・年間2回の学校運営協議会をきっかけに地域との連携を深める。各所と日頃から連絡を密にし、学校への協力や取組への評価をいただく。 ・防災や防犯に関する協力体制を整える。	B	・校内行事への案内などを想定していたが、思うようには機会を設けることができなかった。 ・防災や防犯に関しては、希望の里エリアでの合同避難訓練など、地域との協力体制を維持することができた。

4 学校関係者評価

- ・進路指導について、社会資源の利用など、保護者への情報提供はどう行っているか。情報提供がうまくいっていない部分があるのならば、早期から連携させてもらえればお互いのプラスになる。
- ・近隣事業所がグループになって合同で防災に取り組んでいることは、とても良いことであるし、各事業所にとって助かる。
- ・宇城市においては、市内に20カ所の防災拠点を整備しており、学校に対して福祉避難所として依頼をすることは、想定としてはないが、協定に基づいて開設訓練を継続していることに、敬意を表したい。
- ・働き方改革が進んでいる様子なので、引き続き取り組んでほしい。

5 総合評価

- ・学校関係者(学校運営協議会委員)評価、保護者評価については、アンケート集計より、概ね学校の取組について肯定的な評価をいただいている。
- ・授業の実践、子どもたちの人権を尊重した取組については、職員間でも随時確認をしながら大事にすることができた。保護者の授業参観や関係者の意見からも、良い評価をいただくことができた。
- ・職員研修を重ねて、専門性の向上を図ることができた。また、ICT機器の活用を、外部講師等も活用しながら推進することができた。
- ・要望に応じて、地域支援に取り組むことができた。

6 次年度への課題・改善方策

- ・設備面の充実に関しては、改善を要望する意見も聞かれた。学校そのものが老朽化していることと、基本的な構造が改善を難しくしていることなどが挙げられる。対応できる範囲で要望を挙げながら改善していきたい。
- ・PTAの活動がほぼ行われていないため、PTAの学校への参画がほぼない。原因としては、児童生徒の多くが子ども総合療育センターに入所している(本校舎)、短期の入院がほとんどである(希望ヶ丘病院および県立こころの医療センター)ことが挙げられる。授業参観以外でも学校の様子を見てもらうように誘い掛けをするなど、より働きかけを活発に行う必要がある。
- ・病弱訪問教育は転出入のサイクルが早く、年間延べ150件程度にものぼり、転籍の業務が非常に煩雑である。システム上時間がかかってしまうため、県・市町村の各教育委員会や原籍校との連絡をできるだけスムーズに行えるよう、連携を強めたい。